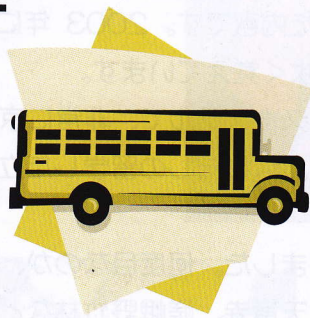


特定非営利活動法人日中児童の友好交流後援会主催

2011年度KDDI財団助成事業

# 「朋友会リユニオンの旅—私の日本夢旅行」

## 訪日者たちの報告

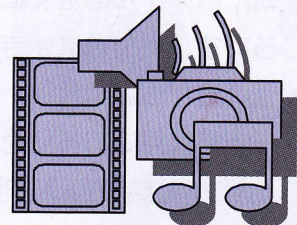


氏名	ページ
(2011年10月5日(水)～10日(月)来日)	
吳超……………	2
趙洋洋……………	4
周大字……………	6
(2012年1月14日(土)～19日(木)来日)	
藩曉亮……………	8
張靜……………	10

事業概要



2012年3月





## 「朋友会リュニオンの旅 — 私の日本夢旅行」

### 《事業内容》

日中児童の友好交流後援会の主催する訪日団のメンバーとして小学生のときに来日した経験をもつ人々の同窓会である「朋友会」。そのメンバーのうち5名を、2011年度内の都合がよい時期に、5泊6日で日本へ招待するもの。

### 《選抜試験》

1. 小論文タイトル：「日本に行ってやってみたいこと」(字数自由)
2. 5泊6日の「夢旅行」の滞在スケジュール案
3. 推薦文(尊敬する人1名、友人1名)

### 《合格者》

2011年10月5日(水)～10日(月) 来日

呉超 (28) キヤノン(中国)有限公司勤務  
趙洋洋(27) 人民日報天津支局勤務  
周大宇(21) 中国農業大学在学

2012年1月14日(土)～19日(木) 来日

藩暁亮(27) 吉林大学(化学)博士課程在学  
張静 (26) 吉林大学(化学)博士課程在学

2011年5月から募集が開始されましたが、3月11日に発生した東日本大震災と福島原子力発電所の事故の影響で、日本へ旅行にきたい、という応募者が集まりませんでした。北京在住で朋友会会長呉超さん、天津在住の副会長趙洋洋さんは、週末ごとに二人で集まり、相談し、連絡先があまりわからない朋友会メンバーを調べ、なんとか1人でも多くの人たちに募集のことを伝えようと、募集要項を中国語に翻訳してブログに載せ、一人ひとりに電話をしてくれるなど、とても頑張ってくれました。後援会でも、募集委員会を開催し、このような状況下、どのように事業展開したらよいか相談しました。しかし、8月になっても応募がなく、日本の状況も、まだまだ余震が続き、風評被害が続くなど、あまりよい状況にはなりません。すると、会長、副会長は責任を感じ、それでは自分たちが応募します、と、選抜試験に必要な文書を作成し、推薦文を添えて、友人を誘って、応募してくれたのです。また、少しずつみなさんの広報努力が実り、結果的に9名の応募がありました。そして審査の結果5名が決定し、10月に1組、1月に1組の来日が実現したのです。

帰国後、5人が提出したそれぞれの旅の報告書を本書にまとめました。

日本にとって大きな出来事があった2011年に、朋友会メンバーが来日してくれたことに対し、心より感謝します。また、朋友会活動へご寄付をいただきました後援会会員の有志の皆さま、本当に有難うございました。私たちの小さな会の、小さな友人たちの訪日を実現させていただき、KDDI財団のご支援に心より感謝申し上げます。そして、事務局として絶大な協力をしてくださった呉超さん、趙洋洋さん、肖輝理事のボランティア精神に心から深い敬意を表します。◇



## 3年ぶりの日本旅

呉超

2008年に帰国してからあっという間に3年も経ちました。この度、「夢の旅」のおかげで再び日本へ戻り、暮らしていた東京と京都へ帰ることが実現できて、とても嬉しかったです。

以下、スケジュールに基づいた観光内容を簡単に紹介します。

DAY1：北京→東京

洋洋さんと周さんとは成田空港で待ち合わせることを約束しました。成田に着いたとたん、外は雨だと気づきました。出口を出ると、すぐあの二人の顔が見えました。周さんは初めて日本に来るので、ぜひいろいろなことにトライしてもらいたいと思い、市内行き電車の切符の購入からスタートしました。

宿泊は東京国際ユースホステルで17年前の日本旅と同じところでした。

DAY2：東京市内観光

雨が止んで晴れの日です。朝早い電車で上野公園へ行きました。かわいい子供たちが上野公園へ向かう姿が見えました。昼ごろ、渋谷駅のハチ公口で江原理事と待ち合わせてメディア関係者の方と一緒に食事をしました。これも洋洋さんの「夢」の一環で、江原理事のご手配で実現できました。

午後、母校の早稲田大学へ指導教授を訪ねに行きました。早稲田のキャンパスを歩いて気持ちよかったです。夕方、東京で有名な港のお台場へ、洋洋さんと周さんを案内しました。お台場の夜景がきれいで、特にライトアップ時の景色がすばらしかったです。

DAY3：東京→京都

京都へ行くのは「夢の旅」の中の最も憧れた内容です。2003年に一年間京都に住んだことがあります。あの時の楽しさは現在でもよく覚えています。

京都で泊まったところは、宇多野国際ユースホステルで、非常に京都の雰囲気溢れるホステルです。嵐山の近くにあるこのホステルはわたしの留学した立命館大学の留学生寮に近いのでとても親切だと思いました。

京都に着いた日の午後、嵐山エリアへ行きました。何度目なのか、はっきりと覚えていません。京都に来るたび必ず行く場所です。天竜寺、嵯峨野竹林などわたしにとっては、毎回行かなければならないところで、洋洋さんと周さんも大変気に入ったそうです。

DAY4：京都市内観光

朝、ホステルの近くにある金閣寺を見学しました。何回来ても毎回新しい感動があるところです。午後は清水寺エリアを歩きました。京都で一番人気のあるエリアと言えるでしょう。懐かしい産寧坂、懐かしい千円ショップ、懐かしい些細な記憶。

夕方、伏見にある稲荷大社を見に行きました。2004年にお母さんを連れて一回行ったことがありますが、稲荷ってどういうものなのか、まったく知りませんでした。ただ世界遺産なので見に行きたいという気持ちでした。



今回、日本の歴史に大変興味を持つ周さんのご紹介でやっと分かるようになりました。そして千本鳥居を見た瞬間、新しい感じもできました。

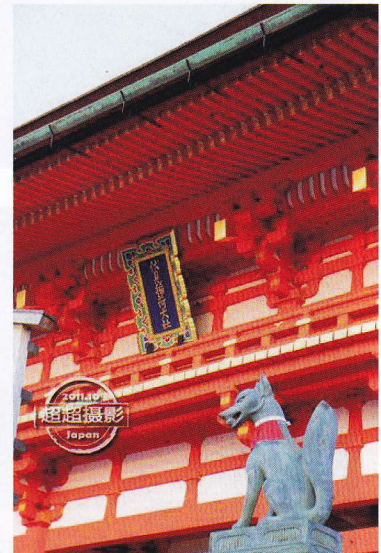
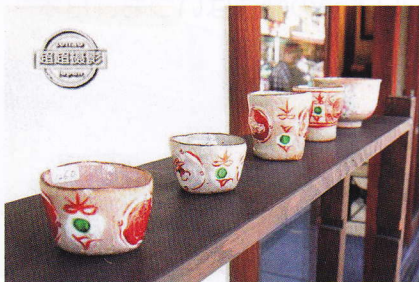
DAY5：京都→東京

わずか2日間の観光でしたが、京都のあちこちを行ったり来たりして過去の楽しい思い出を振りかえられて、よかったです。

東京に戻ったら後援会の皆様がすでにユースホステルに集まっていた。われわれ3人のためにすばらしい送別会を設けていただきました。皆様に大変お世話になりました。

DAY6：帰国

北京に帰ってきても時々日本の旅を思い出します。東北大震災に遭った日本の頑張る姿が見え、きっと素早く復興できると信じています。今度の日本の旅は、夢の実現できた旅で、とても楽しかったです。





# 夢の旅行

趙洋洋

もしどのような旅行が好きかに聞かれれば、答えはきっと、自分が愛する人と一緒に、好きな地方へ行く旅行です。

愛する人には、家族、友達と恋人が含まれています。

日本こそ、自分が好きな所です。中でも、ドラマ、映画、アニメに憧れています。



大好きなドラマは、日本の俳優の木村拓哉が主役の《Good Luck》で、毎回見ると、夢を持つ力を感じることが出来ます。

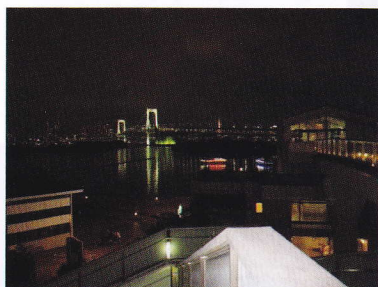
初めて乗る ANA のフライトは、かわいいパンダの図案を吹き付けている飛行機でした。今度の旅行でいっぱい良い気持ちを持ってきました。



私は大学を卒業して就いた仕事の中では、ほとんど日本語を使わないので、日本語の勉強はいつも、日本のドラマや映画です。

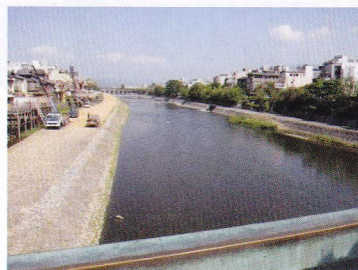
電車の中に、あるいはホームに、新しいドラマのポスターが至る所に見られます。日本のマスコミの発達と完備に感心しています。

お台場のレインボーブリッジ、上野公園の桜の道、新宿の歌舞伎一番町はすべて經典のドラマの中によく出てくるシーンです。



百聞は一見に如かず。京都の鴨川も金閣寺も映画とドラマの中でよく見るシーンです。

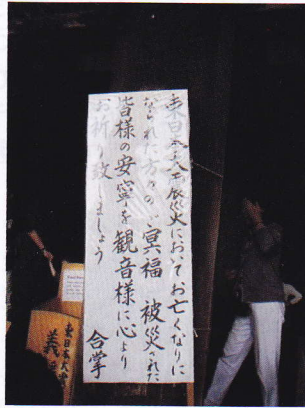
ドラマが好きな理由は、すべてのストーリーが愛を伝達していて、すべての主役が不屈の精神を持っているからです。



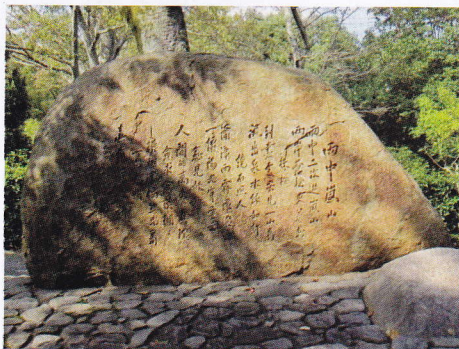


旅の巻 本日の巻

日本国民も映画とドラマのように、強靱な姿が見られます。



2年ぶりに再度、渋谷に来ました。変わった広告のポスターを除くと、すべて変わっていません。緑色の電車はそのまま、駅の前に止まっていました。



私は南開大学を卒業しました。周恩来総理は南開大学の有名な校友です。京都嵐山の周恩来総理詩碑には、「日の光が雲の間をぬって差し、ますますあでやかである」という言葉が刻まれています。

日本、頑張ろう!

日光が、曇り空を通り抜けて、光芒を四方に放つ時、「実に、ますます、あでやかである」ように!

KDDI 財団には、全行程に対してご助成してくださり、ありがとうございました。  
江原先生と「日中児童交流後援会」の理事さまは、今回の旅行のために多大なるご尽力を賜り、日本での心尽くしのおもてなしにあずかりました。ありがとうございました。  
呉超さんは今回の旅行のいろいろな準備をしてくださいました。ご苦労さまでした。ありがとうございました。

趙洋洋より